

風評被害を克服するために機能性野菜の栽培をめざす

震災からの 復興を自分たちの手で



科学部のメンバー

受け継がれた伝統、根底にある思い

福島市立渡利中学校科学部の創部は2013年と比較的新しい。しかし、翌年以降、日本学生科学賞で毎年入選するなど、科学賞の常連校となっている。

歴代の部員はいずれも運動部との掛け持ちで活動時間は限られるが、研究に向かう根気や責任感の強さなど、先輩から受け継いだ部の「たすき」が研究を支えてきた。その根底にあるのは、東日本大震災後に抱いた「自分たちにもできることがあるはずだ」という思いだ。

実は、福島第一原発事故後、渡利中周辺は局所的に放射線量が高い「ホットスポット」が点在する地域としてメディアでも取り上げられた。不安に駆られて転出した生徒も多く、「自分たちは取り残された」という思いが学校中を覆っていた。



福島市立渡利中学校



野菜の成長を確認



真剣な表情で植え替え



日本理科教育学会でのポスター発表

●実施担当

菅野俊幸 教諭

●活動のモットー

研究活動を通して、復興に携わる方々との出会いが生徒を成長させ、自主性が高まった。生徒が復興の担い手となり、活躍してくれることを期待したい。

「高い知性と豊かな感性を育む教育～凍と生きる～」をモットーに、個に応じた補充的・発展的な学習などに取り組む公立校。

学校概要

設立：1947年
生徒数：339人
所在地：福島市渡利字平内町106番地

科学的なものの見方を身に付ける

そんな雰囲気を変えるべく始まった活動では、放射線量の低い屋内で野菜を育てる「野菜工場の研究」や、植物を使った「塩害土壌の克服の研究」などを進めてきた。さらに、風評被害克服のため、腎臓病透析患者に向けた「低硝酸・低カリウム野菜」など付加価値のある機能性野菜の栽培の研究も進めている。

顧問の菅野俊幸教諭は「科学賞の入選などで生徒は自信を持つようになりました。また、風評被害を払拭するには、“福島の今”を発信しなければという思いからプレゼン能力も向上しています。生徒には風評被害の原因となる根拠のない噂などに惑わされず、科学的なものの見方を身に付けてほしいです」と語る。その願いどおり、放射線研究を志して東京医科歯科大学に進んだり、東北大学の「科学者の卵養成講座」を受講するなど、科学的な見方を養い続けている OB・OG も多い。

(平成30年度個別助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人
中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索